

(4) 水道料金

令和2年度の給水原価、供給単価はそれぞれ144.75円、144.51円となった(図-10)。令和元年度と比較し、供給単価が約15円安くなっている。これは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえた経済対策として、多くの事業者で水道料金の減免が行われたためと推測される。

給水原価、供給単価を全国と同年度で比べてみると、直近の水道統計によれば、令和元年度の全国平均では給水原価が168.58円、供給単価は174.01円となっているのに対し、令和元年度の大阪府の給水原価は144.98円、供給単価は159.82円であった。給水原価、供給単価ともに全国平均を下回っており、給水原価が供給単価を下回る状況となっている。

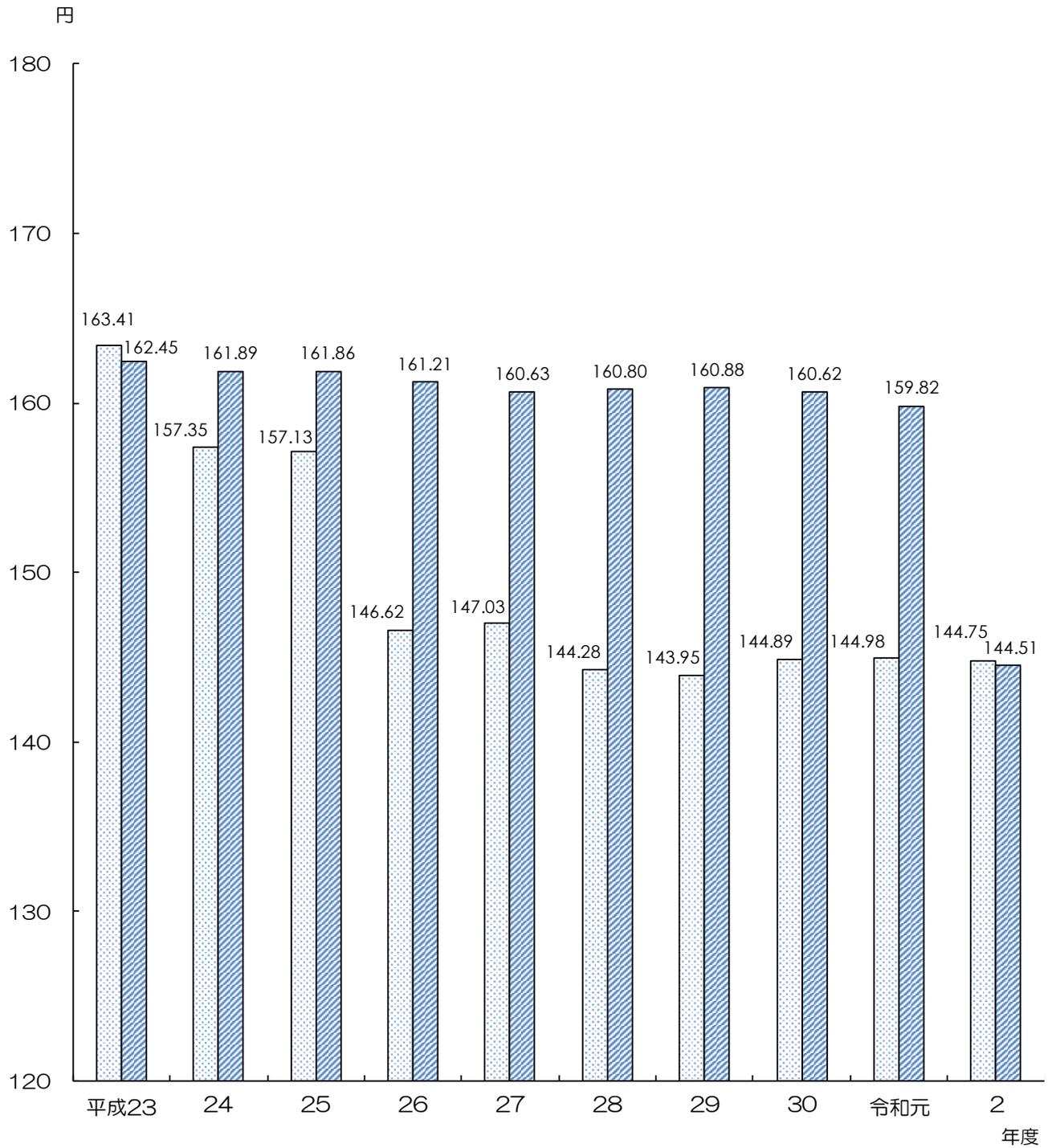
表-15のとおり事業者間で格差が生じているが、家庭用1ヶ月20m³(口径別料金の場合13mm)当りで換算して比較すると、2,600円以上2,800円未満の事業者が最も多く、府平均は2,884円となっている。

また、最高料金は4,906円で最低料金2,035円の2.41倍となっている(表-15)。

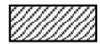
表-15 家庭用水道料金(上水道)

		令和3年3月31日現在
1ヶ月20m ³ 当り換算		事業数
2,000円未満		0
2,000円以上 2,200円未満		2
2,200円以上 2,400円未満		1
2,400円以上 2,600円未満		9
2,600円以上 2,800円未満		11
2,800円以上 3,000円未満		8
3,000円以上 3,200円未満		6
3,200円以上 3,400円未満		2
3,400円以上 3,600円未満		1
3,600円以上 3,800円未満		0
3,800円以上 4,000円未満		1
4,000円以上		2
(備考) 平均料金	2,884 円	
最低料金	2,035 円	
最高料金	4,906 円	

図-10 給水原価と供給単価（上水道）




 給水原価 = $\frac{\text{経常費用} - \text{受託工事費} - \text{長期前受金戻入等 (平成26年度以降)}}{\text{年間総有収水量}}$


 供給単価 = $\frac{\text{給水収益}}{\text{年間総有収水量}}$